

製品名: LEF-1 (リン酸化Ser42) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04951**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	LEF1
別名	LEF1; Lymphoid enhancer-binding factor 1; LEF-1; T cell-specific transcription factor 1-alpha; TCF1-alpha
遺伝子 ID	51176.0
SwissProt ID	Q9UJU2
免疫原	抗血清は、Ser42 のリン酸化部位周辺のヒト LEF-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 8-57

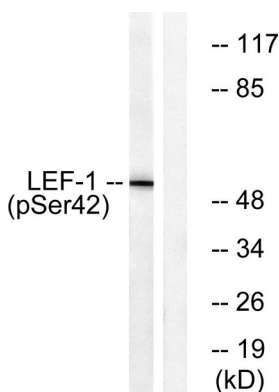
背景

この遺伝子は、高移動度群タンパク質 1 (HMG-1) と相同性を持つタンパク質ファミリーに属する転写因子をコードしています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、T細胞受容体αエンハンサーの機能的に重要な部位に結合し、最大のエンハンサー活性をもたらします。この転写因子はWntシグナル伝達経路に関与しており、毛髪細胞の分化および毛包の形態形成に機能すると考えられます。この遺伝子の変異は、体細胞性脂腺腫瘍で発見されています。また、この遺伝子は、アンドロゲン非依存性前立腺がんなど、他のがんとの関連も指摘されています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2009年10月]、代替産物：追加のアイソフォームが存在するようです、ドメイン：プロリンに富む酸性領域は、RNAポリメラーゼII転写因子の活性化機能に関与しています。機能：Wntシグナル伝達経路に関与します。CTNNB1およびEP300の存在下で標的遺伝子の転写を活性化します。毛細胞の分化および毛包の形態形成に役割を果たす可能性があります。TLE1、TLE2、TLE3、およびTLE4は、LEF1およびCTNNB1を介した転写活性化を抑制します。T細胞受容体αエンハンサー機能を調節します。配列特異的にDNAに結合します。PIASGは、LEF1によるWnt依存性およびWnt非依存性の活性化の両方に拮抗します（類似性による）。アイソフォーム3はCTNNB1相互作用ドメインを欠いており、Wntシグナル伝達の拮抗薬である可能性があります。類似性：TCF/LEFファミリーに属します。類似性：1つのHMGボックスDNA結合ドメインを含みます。細胞内局在：PIASGが結合すると核小体中存在します。サブユニット：CTNNB1のアルマジロリピートに結合し、安定した複合体を形成します。EP300、TLE1、PIASGと相互作用する（類似性による）。THOC4、MDFI、MDFICに結合する。組織特異性：胸腺で検出される。正常大腸では検出されませんが、大腸癌生検および大腸癌細胞株では高発現している。

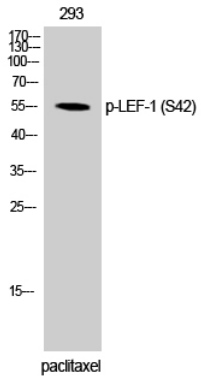
研究分野

WNT、WNT-T細胞接着結合、メラニン生成、がんの経路、大腸がん、子宮内膜がん、前立腺がん、甲状腺がん、基底細胞がん、急性骨髄性白血病、不整脈性右室心筋症 (ARVC)

画像データ



パクリタキセル 1 μ M を 24 時間処理した 293 細胞ライセートの LEF-1 (リン酸化 Ser42) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロックされている。



リン酸化 LEF-1 (S42) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析